

巻頭のことば：朝倉敏夫教授退任記念論文集の刊行にさいして

『立命館食科学研究』編集委員長 松 原 豊 彦

朝倉敏夫先生のご退職にさいして、『立命館食科学研究』において退任記念論文集を特集し、ここに刊行することになりました。

朝倉先生は2021年3月31日をもって、立命館大学教授の職を退かれます。先生は2016年4月に立命館大学経済学部に着任され、2018年立命館大学食マネジメント学部の設置にともない、同学部に移籍されました。食マネジメント学部の初代学部長として2018年4月から3年間にわたり、創設もない食マネジメント学部の教育研究を牽引してこられました。この間の先生のご尽力と多大なご功績をたたえとともに、そのお人柄を敬愛して、ここに記念論文集を編集・刊行し、先生に贈呈することになりました。

朝倉先生は1950年12月28日東京でお生まれになり、武蔵大学人文学部を卒業後、明治大学大学院に進学され、同大学院博士後期課程（政治経済学研究科）を単位取得満期退学されました。1988年から国立民族学博物館研究部に助手、助教授、教授として長くお勤めになりました。この間同館の民族文化研究部部長、文化資源研究センター長を歴任され、2016年に定年退職されました。また、同館を基盤機関とする総合研究大学院大学においては、多くの院生を指導され、優れた研究者を輩出されました。これにより国立民族学博物館・総合研究大学院大学の名誉教授であります。

先生は文化人類学を専攻され、韓国の社会と文化に対する深い理解にもとづき、韓国社会及び海外コリアンの生活を家族と食の視点から調査研究してこられました。先生は1980年韓国西南部にある都草島に長期間滞在し調査したことを皮切りに、長年にわたって韓国、および中国、アメリカ合衆国、サハラ以南など海外コリアン社会でのフィールドワークに従事されました。その成果は、先生の著作『コリアン社会の変貌と越境』（臨川書店、2015年）にまとめられています。そして、韓国食文化研究の蓄積をベースに日本の食文化との比較研究へと展開され、『日本の焼肉、韓国の刺身』（農山漁村文化協会、1994年）などで、わが国の比較食文化研究を切り開いてこられました。その成果の集大成というべき著作が『世界の食文化① 韓国』（農山漁村文化協会、2005年）でした。この著作は、石毛直道監修世界の食文化シリーズの第1巻として刊行されたもので、わが国の食文化研究の到達点を示すものです。こうして、先生はわが国における韓国食文化研究および比較食文化研究の開拓者として学界をリードしてこられました。

こうした学界の活動とともに、韓国文化の展示や講演、「宮廷女官チャングムの誓い」をはじめ多くの韓国ドラマの日本語版監修をするなど、多岐にわたる学術研究と文化交流の功績に対して、2013年に大韓民国玉冠文化勲章を受章されました。

また、先生は韓国文化人類学会、日本文化人類学会、日本民俗学会、比較家族史学会などで活躍されるとともに、和食文化学会の創立に参加され食文化研究の確立に尽くしてこられました。

食マネジメント学部は、食の総合研究である食科学（Gastronomic Arts & Sciences）を目指す先駆者として2018年に開設されました。カルチャー、マネジメント、テクノロジーの3つの領域とその総合的展開という、他の大学に類例をみないカリキュラムによって学生の教育を進めています。朝倉先生は設置準備の段階からご尽力いただき、食マネジメント学部設置後は初代学部長として新任教員の多い学部のまとめ役として牽引してこられました。食マネジメント学部の「生みの親」であり、大黒柱というべき先生がご退任になることは誠に残念ではありますが、これも時の定めとあれば致し方ありません。

幸い先生はお元気でありますから、今後も食マネジメント学部と食総合研究センターのために、大所高所からのご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。先生のますますのご健勝とご発展を心から祈念して、記念論文集の巻頭の言葉とさせていただきます。

2021年2月

